平成２０年３月１０日
サンフランシスコ産業情報センター
駐在員　小柳津彰啓

一般調査報告書

名古屋大学ノースカロライナ事務所開設、オープニングセミナー開催

３月３日、ノースカロライナ州リサーチトライアングルパークのノースカロライナバイオテクノロジーセンターにて、「名古屋大学セミナー」が開催されました。これは名古屋大学が産学官連携推進の米国拠点として開設したノースカロライナ事務所のオープニングを記念してのセミナーです。

近年、日本の大学が海外に拠点を構える例が増えていますが、これまで米国においては、サンフランシスコベイエリアに拠点を構える大学が多数でした。こうした中、なぜ名古屋大学はノースカロライナを選んだのか。同大学事務局の方に伺ったその戦略と、セミナーの様子を報告します。

＜なぜ、ノースカロライナなのか＞

名古屋大学ノースカロライナ事務所は、現在、州都ラリー（Raleigh）の州政府商務省内にあります。（近い将来リサーチトライアングルパーク内へ移転予定。）そう聞いて、皆さん最初に疑問に思われることは、「なぜ、ノースカロライナに拠点を構えたのか」ではないでしょうか。その疑問に対しては、次の３つの理由が返ってきました。

① バイオ産業の集積地
② 米国の大学との交流実績
③ 他に日本の大学が進出していない

＜リサーチトライアングルパークの存在＞

ここリサーチトライアングルパークは、州都ラリーのノースカロライナ州立大学、ダーラム（Durham）のデューク大学、チャペルヒル（Chapel Hill）のノースカロライナ大学チャペルヒル校を結ぶエリアの中にあります。1959 年に州政府が創出した学術研究都市で、IT やバイオテクノロジー関連企業の研究開発拠点やベンチャー企業が集積し、上記大学との産学官連携による成功事例としてあまりにも有名です。

州政府は 1984 年に、バイオテクノロジー戦略の策定や、大学やベンチャー企業に対し研究資金の支援を行う機関として、ノースカロライナバイオテクノロジーセンターをリサーチトライアングルパーク内に設立し、以後バイオ産業の振興に力を注いできました。その結果、リサーチトライアングルパークはもとより、同州内には多くのバイオ関連企業が集積しており、バイオ産業集積地であるサンフランシスコ、サンディエゴ、ボストンを擁するカリフォルニア州、マサチューセッツ州に次ぐ、全米有数のバイオ産業集積地となっています。

＜名古屋大学の強みが生かせる地域＞

名古屋大学の産学官連携における強み、注目される名古屋大学発の技術は、バイオ関連、特に再生医療やナノバイオにあります。その強みを生かせる地域ということでバイオ産業集積地が選ばれたのでした。

加えて、名古屋大学は既に、医学部がデューク大学やノースカロライナ大学チャペルヒル校と協定を結び交流を進めているほか、2007 年にはチャペルヒル校及びノース

カロライナ州立大学と全学レベルでの産学連携協定を取り交わしています。それら大学の存在や州政府の強力な支援が大きな理由の一つです。
　また、名古屋大学ノースカロライナ事務所は、Technology Partnership of Nagoya University, INC.という名称からもわかるように、その使命を、国際産学官連携、同大学発の技術移転と特化しています。他の日本の大学が進出していない地域であることが逆に、同州でより名古屋大学の独自色を示せ、強みを発揮できるとの考えがあってのことでした。

＜セミナー概要＞
　そうした名古屋大学の戦略を反映したセミナーが３月３日に行われました。
　その内容は、名古屋大学副学長、ノースカロライナ州商務省長官のあいさつに始まり、ノースカロライナ大学、ノースカロライナ州立大学からの国際産学連携戦略紹介、名古屋大学の産学連携戦略・産学協力による名古屋大学発の技術の紹介、トヨタの米国の大学との共同研究戦略、産業界からの日本の産学連携動向紹介、日本のベンチャーキャピタルのノースカロライナにおける展開、バイオテクノロジーセンターからの日本の大学との産学連携における期待と、産学連携に特化したものでした。

　既に名古屋大学ノースカロライナ事務所には、同大学から２名が派遣され成果を求めて活動が始まっています。名古屋大学とのコラボレーションから発展した米国企業が愛知へ進出、あるいは研究拠点を開設なんてことが、将来実現することを期待しつつ、愛知県サンフランシスコ産業情報センターとしても名古屋大学ノースカロライナ事務所の取組に協力していきたいと思います。

名古屋大学セミナー会場：ノースカロライナバイオテクノロジーセンター